

故郷記憶

岩本昭典

不識書院

いわもと あきのり
岩本昭典

昭和3年4月、大宮市に生れる。昭和25年3月
東京医大卒、内科小児科開業。昭和48年4月
大西民子氏のもとで作歌を始める。昭和49年
11月、第一歌集『曲見』出版。
現住所 埼玉県大宮市天沼町 2-941-1

紡ぐ記憶 つむぎおく

一九八六年四月二〇日印刷
一九八六年四月二五日発行

著者 岩本昭典

発行者 中静 勇

発行所 不識書院

東京都千代田区神田小川町三ノ二

電話(03)二九二一九一〇三

振替東京五一九〇九九五

錦明印刷 牧製本

定価二五〇〇円



© Akinori Iwamoto 1986

紡ぐ記憶 目次

対をなす耳環	3
彩のなき夢	7
水の匂ひ	11
花骸を	17
光か水か	21
熱のある手	25

海の彫刻

春立つ日

宙づりの月

木彫の馬

海は藍いろ

倉屋敷

陶工の眼

医の業ゆゑに

小石の音

手のひらの傷

何を謀らふ

33

37

41

45

51

57

63

67

71

75

81

元日の雨

85

茶房の椅子

89

肩よりまとふ

93

香のけむり

97

黒の手袋

103

描くかな文字

107

許さるる嘘

111

冬芽を継ぎて

115

背のまるき

119

友のいのちを

125

病ひ終りぬ

129

砂の館

風を背に

束ねし手紙

衿寒く

夢のむかう

風を衝き

あとがき

161

157

153

149

145

141

135

紡ぐ記憶

対をなす耳環

対^{たい}をなす耳環ひとつはづされて置かる
時にあるいは孤独

いちにちの最後^{をわり}の光うくる波見つつ歩きぬ白
き渚を

物言はぬま砂の上のあやめなき足あとを追ふ
人知れず追ふ

右の掌^てに残るぬくみに左手を添へつつ歩く没^い
り日の道を

回想の木馬を空に浮ばせて時のま透明となり
ゆく頭脳

ストールをぬげば若草いろとなり夕風ぐ湖^{うみ}を
ともに見^み放^きけむ

あたたかき言葉一つを持ち帰り部屋の灯りを
消し難くゐる

彩のなき夢

盃を交さむ思ひ不意に湧く父逝きてより二十^{はたと}
年^せになほ

わが父母を知る友と立ち俗名を指にたどりぬ
雨の墓文字

ものの影がわが背に落ちぬ刻^ほられたる父母の
墓碑銘と対ひゐるとき

紡ぐ記憶の縦糸のみが光る宵きれぎれに浮く
父母とわれ

父の声も交れる幻聴聞きてなほ彩いろのなき夢つ
づいてゐたり

雨の光かけを胸よりうけて歩く日は死者にまじれ
る父母の声する

乾盃の真似などしあふ透明のグラスのむかう
に笑む妻の顔

沈丁のかをりのむかうに立つ妻に風は光りぬ
はららくやうに

いつの日のいろにか移ろひゆく夕日共に見て
ゐき言葉少なに